

# シリア語との対照によるアラム語動詞活用体系化の試み

秋 山 学

## 〈目次〉

- I 序.
- II アラム語・シリア語の近似性について－代名詞語尾と動詞活用語尾－
- III ①頻度順による旧約聖書アラム語動詞の表
- IV 活用の規則性によるアラム語動詞分類の試み－シリア語との対照による－
- V ②活用分類による旧約聖書アラム語動詞の表
- VI アラム語動詞の語幹（談話態）活用－強動詞・諸不規則動詞－
- VII アラム語基本動詞の語幹活用表－シリア語からアラム語へ－
- VIII 結.
- IX 付. 動詞インデックス

## I 序.

アラム語は、旧約聖書が記される上で、ヘブル語と並んで用いられた言語の一つである。ただヘブル語部分に比してその分量が極めて小さく、下記の箇所限定される。

『創世記』 31.47

『エズラ記』 4.8－6.18, 7.12－26

『エレミヤ書』 10.11

『ダニエル書』 2.4－7.28

このうち『創世記』の部分は、ラバンがある石塚に付した呼び名であり、『エレミヤ書』の一節は「このように彼らに言え」との直接引用による一句に過ぎず、事実上上記の箇所は『エズラ記』および『ダニエル書』の一部に限られることになる。このようにアラム語に関しては、記されたテキスト部分が少ないために、体系的な文法書を編むだけの資料に乏しい。したがって教授の際には、

旧約ヘブル語の知識を前提とし、これにアラム語の特性を付言するという方法が採られるのが慣例となっている。

一方、アラム語と同じく北西セム語族〔アラム語族〕に属しながらも、旧約聖書アラム語が西方アラム語族に分類されるのに対して東方アラム語族に入るシリア語は、基本的に「ペシッタ」と呼ばれる旧新約聖書の訳文（A.D.400年頃完結）のほか、教父たちの記した文書で構成され、資料の上で非常に豊かである。

本稿は、従来旧約講読のために付随的に教授されるのみであったアラム語の位置づけをシリア語の側から見直そうという試みである。すなわちヘブル語と比した場合、系統上アラム語により近く、また近年初等文法書の整備も日ごましいシリア語の漸進的文法教育を基軸に据えた上で、これにアラム語の特性を補説するという方法を想定し、その際いかなる留意が必要かを考察するという目的を持つものである。

セム系言語にあっては、語彙は原則として三個の「根字」を基にして形成される。そして子音からなるこの「三根字」を留めているのが動詞であり、動詞から名詞や形容詞が派生するのが特徴である。したがって文法教育に際しては動詞の理解を深めることが肝要である。そこで本稿では、特にアラム語動詞の分類法について考察する。旧約聖書のアラム語部分に現れる語彙は全体で648語、動詞だけに限ると188語（借用語2語を含む）である。これらのアラム語動詞を、シリア語動詞の分類法に照らして分類することにより、その活用把握を容易にするというのが本稿の趣旨である。

以下の考察は、きわめて実用的な色彩を帯びており、実際に「旧約聖書講読」のためのアラム語教授に携わる際に、補助資料として用いる目的を有している。まず、本稿で用いた参考文献を列挙しておくことにする。

〈本稿で用いた主な参考文献〉

- ・ F. Brown / S. R. Driver / Ch. A. Briggs (edd.), *A Hebrew and English Lexicon of the Old Testament*, Oxford 1906 (以下「ブラウン」として引用)。
- ・ W. L. Holladay (ed.), *A Concise Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament*, Grand Rapids / Leiden 1993.
- ・ E. Kautzsch (ed.) / A. E. Cowley (rev.), *Gesenius' Hebrew Grammar* (2 d. ed.), Oxford 1910 (「ゲセニウス」)。
- ・ Th. O. Lambdin, *Introduction to Biblical Hebrew*, New York 1971.

- ・ L. A. Mitchel, *A Student's Vocabulary for Biblical Hebrew and Aramaic*, Grand Rapids 1984 (「ミッチェル」).
- ・ Th. Noldeke (tr. by J. A. Crichton), *Compendious Syriac Grammar*, Wiconna Lake 2001 (「ネルデケ」).
- ・ Th. H. Robinson, *Paradigms and Exercises in Syriac Grammar*, Oxford 1962 (「ロビンソン」).
- ・ F. Rosenthal, *A Grammar of Biblical Aramaic* (6th ed.), Wiesbaden 1995 (「ローゼンタール」).
- ・ J. P. Smith (ed.), *A Compendious Syriac Dictionary*, Oxford 1903 (「スミス」).
- ・ W. B. Stevenson, *Grammar of Palestinian Jewish Aramaic* (2nd ed.), Oxford 1962 (「スティーブンソン」).
- ・ W. M. Thackston, *Introduction to Syriac*, Bethesda 1999 (「サクストン」).
- ・ 飯島紀『古代の歴史ロマン② アラム語』(国際語学社, 2001年).
- ・ 名尾耕作『旧約聖書ヘブル語大辞典 付アラム語(高橋虔)』(聖文舎, 1982年).
- ・ 奴田原睦明/岡真理『エクスプレス アラビア語』(白水社, 1989年).

ところで、アラム語はヘブル文字で、またシリア語はシリア文字で記されているため、原語の文字をそのまま印字することには技術的な困難が伴う。またこれらセム系言語のトランスクリプションの際に用いられるアルファベットについても、必ずしも通常のアルファベット内に収まる文字ばかりではない (t 字の下点などを含む)。したがって本稿においては、パソコン等のキーボードで普通に用いることのできる限りのキーで、それぞれの言語の音を転写することにする。もとより言語学的に正確を期したものではない。

なお B/b, G/g, D/d, K/k, P/p, T/t の違いは、各文字について「弱ダゲツシュの無/有」に対応する。弱ダゲツシュの付加は、「氣息」を伴わずにそれらの文字を発音することを意味するが、このような「硬い」音こそ本来的であったとの見解が一般的であり、こちらの音を他の文字と同じく (アルファベットの) 小文字で表すことを試みた。さらに、これらの文字に強ダゲツシュ (同一音重複記号) が付く場合、重複されるのは「硬い」音であり、したがって小文字を 2 度記すことにする。シリア語に関しては、上記サクストンの発音表記を基準としながら、アラム語に対応するかたちで、氣息を伴う場合を

大文字、伴わない（本来的な）場合を小文字で表す。

またシェバーに関しては、ヘブル語には有音シェバーと無音シェバーが存在するが、アラム語のシェバーは一般的に「無音シェバー」であるとされる。本稿では、語頭のシェバー、もしくはシェバーが2個連続する場合の2個めのシェバーに限り、これを半角ダッシュ記号で表すことにした。シリア語ではシェバーは表記されず、本稿でも用いていない。

〈字・音転写表〉

名称	アルファベット転写	名称	アルファベット転写
アラフ	'	ミム	m
ベト	B b	ヌン	n
ガマル	G g	セムカト	S
ダラト	D d	エ	'
ヘト	h	ペ	P p
ワウ	w	サデ	ç
ザイン	z	コフ	q
ヘット	H	レシュ	r
テット	th	スイン	s
ヨド	y	シン	sh
カフ	K k	タウ	T t
ラマド	l		

(シェバー)

(半角ダッシュ記号)

〈母音符号〉短音		長音
	á	â
	é	ê
	ó	î
通常音	a	ô
	e	û
	i	
	o	
	u	

## Ⅱ アラム語・シリア語の近似性について 代名詞語尾と動詞活用語尾

では次に、アラム語、シリア語両語がいかに類似しているかについて、動詞変化形の一端からそれを探ってみることにしよう。セム語では動詞変化語尾は、基本的に代名詞語尾から派生しているため、動詞に先立ち代名詞語尾の比較から始めねばならない。

☆代名詞語尾 (cf.ローゼンタール § 31; サクストン p. 14/34).

### ★アラム語

sg.3. masc.	-êh, -hî
fem.	ah
2. masc.	K
fem.	Kî
1.	-î (動詞には-nî)
pl.3. masc.	-hôm, hôn
fem.	-hên
2. masc.	-Kôm, Kôn
fem.	-Kên
1.	nâ

### ★シリア語

sg.3. masc.	-eh
fem.	-âh
2. masc.	âK
fem.	-eKy <y 字は無音>
1.	-# / -î (動詞には-an)
pl.3. masc.	-hon
fem.	-hên
2. masc.	-Kon
fem.	Kên
1.	-an

両語の近似性は明瞭であろう。次に動詞変化語尾の比較に移る。

### ☆動詞活用語尾

(cf.ローゼンタール § 101/105; ネルデケ p. 158; サクストン p. 9/77).

### ★アラム語

	<完了>
sg.3. masc.	-
fem.	aT
2. masc.	-t(tâ)
fem.	-tî
1.	-êT
pl.3. masc.	-û
fem.	-â

### ★シリア語

	<完了>
sg.3. masc.	-
fem.	-aT
2. masc.	-t
fem.	-ty <y 字は無音>
1.	-eT
pl.3. masc.	無音 w/-ên
fem.	無音 y/-ên

2. masc. -tûn  
 fem. -tên  
 1. -nâ

〈未完了〉

sg.3. masc. y-  
 fem. t-  
 2. masc. t-  
 fem. t-...în  
 1. ' -  
 pl.3. masc. y-...ûn  
 fem. y-...ân  
 2. masc. t-...ûn  
 fem. t-...ân  
 1. n-

〈命令法〉

sg.2. masc. -  
 fem. -î  
 pl.2. masc. -û  
 fem. -â

2. masc. -ton  
 fem. -tên  
 1. -n/-nan

〈未完了〉

sg.3. masc. n-  
 fem. t-  
 2. masc. t-  
 fem. t-...in  
 1. ' -  
 pl.3. masc. n-...un  
 fem. n-...ân  
 2. masc. t-...un  
 fem. t-...ân  
 1. n-

〈命令法〉

2. masc. -  
 fem. /無音 y  
 2. masc. /無音 w/-un  
 fem. /無音 y/-ên

未完了の際に3人称でアラム語がy-の箇所がシリア語ではn-となること、語尾についてはアラム語の-ûnの箇所がシリア語の完了では-on、未完了では-unとなること、その他細かい相違があるが、動詞変化の体系全般に関して相違点は微々たるものだと言える。

### Ⅲ ①頻度順による旧約聖書アラム語動詞の表

では次に、ミッチェルの単語集の中からアラム語の動詞を抽出し、頻度順に掲げることにする。頻度表示に関しては、ミッチェルのものを踏襲してA～Lの12段階とし、語彙の右側にアルファベットを記してこれを表示する。動詞は計188語あるが、このうちアッシリア語からの借用語とされる shêziB「救い出す」(E) および shêçî' (L) は除く。シリア語の対応語彙に関しては、主に

スミスの辞書を参照し、基本的に見出し語形を記した。?マークはシリア語の対応語彙が見つからない場合である。

アラム語の見出し語形としては、単純語幹活用の第3人称単数完了形を基本形としつつも、旧約聖書テキストに証例のある語形を重んじた。その際、第2字にyないしw字が来るアラム語動詞（以下アラビア語にならい「くほみ動詞」と呼ぶ）は、総じてヘブル語と同形であり、ヘブル語ではこのような場合不定形をもって基本形とするのが慣例である（e.g. qûm）。アラム語では、不定形はヘブル語と同形にはならない（m·qâm）が、本稿ではヘブル語の慣用にしたがって対応ヘブル語の不定形を表記する（qûm）一方、シリア語については三根字を示した。また第2字と第3字が同一となるもの（「ダブル動詞」）に関しては、アラム語ではブラウンらの辞書に従って三根字で表記するが、スミスのシリア語辞典では2つの根字で表記しており、本稿でもこれを踏襲したため、アラム語とシリア語では語彙表記が異なっている。なおアラム語・シリア語ともに、ヘブル語と異なって、語末の'字は母音の一部である。したがって以下の表記では'字を明記していない。このような動詞の場合、'字ではなくh字を取ることもあるが、これも明記しないものとする。

〈アラム語語彙〉	〈語義〉	〈シリア語語彙〉
A 50回以上		
'âmar	言う	'âmar
hâwâ	ある	hwâ
B 20-50回		
b-nâ	建てる	bnâ
Hâzâ	見る	Hzâ
y-Da'	知る	yda'
y-haB	与える	yahab
'âBaD	なす	'âbed
'ânâ	答える	'ânâ
qûm	立ち上がる	qwm
sîm	置く	sym
sh-nâ	変わる	shnâ
C 13-19回		
'âTâ	来る	etâ

Háwâ	知らせる	hwâ
'álal	入る	'al
sh-KaH	見出す	shkaH
sh-laH	遣わす	shla'
D 10-12回		
b-hal	鎮める	bhel
b-'â	探す	b'â
d-qaq	ぶち壊す	daq
y-Kil	できる	?
n-Pal	落ちる	npal
n-Paq	出てゆく	npaq
S-GiD	崇敬する	sged
p-laH	仕える	?
ç-Bâ	欲する	çbâ
q-râ	呼ぶ	qrâ
r-mâ	落とす	rmâ
E 8, 9回		
'áTar	設置する	ytar
g-lâ	明かす	glâ
y-qaD	燃やす	iqed
k-TaB	書く	ktab
m-thâ	到着する	mthâ
S-liq	登る	Sleq
'áDâ	通りすぎる	'adâ
q-rêB	近づく	qreb
sh-ma'	聴く	shma'
tûâB	戻る; 悔いる	twb
F 7回		
'áBaD	滅びる	'abad
'ázal	出て行く	'azal
'áKal	食べる	'akal
dûr	めぐる	dwr
hálaK	行く	Salak

k-lal	終える	kal
n-Tan	与える	cf.ntal
q-thal	殺す	qthel
r-sham	刻みつける	rsham
sh-léth	治める	shleth
G 6回		
b-thêl	止まる	?
g-zar	奪い取る	gzâl
d-Hal	恐れる	dHal
HáBal	ねじる	Hbal
Háyâ	生きる	Hyâ
n-HaT	降りる	nHat
r-Bâ	大きくなる	rbâ
sh-'êl	質す	sh'el
sh-râ	止める; 緩める	shrâ
H 5回		
b-qar	探し求める	bqar
y-TiB	座る	yteb
m-lal	語る	mal
m-nâ	数える	mnâ
ç-Bâ'	濡らす	çba'
sh-BaH	褒める	shba'
sh-Baq	見捨てる; 立ち去る	shbaq
sh-Tâ	飲む	shtay
t-qiP	強くある, なる	tqap
I 4回		
b-raK	祝福する	braK
HálaP	通りすぎる	Hlap
th-raD	追い散らす	thrad
k-hêl	能力がある	?
k-PaT	縛られる	kpet
m-Hâ	打つ	mha
n-DaB	喜んで~する	?

n-zaq	損害を被る	?
'áraB	交換する	'arab
ç-laH	繁栄させる	çlaH
rûm	体を起こす	rwm
sh-Pêl	低める	shpâl
J	3回	
'áZâ	灯す	?
'áman	信ず	'aman
háDar	誉め称える	?
HáBâl	傷つける	habel
th-'am	養う	th'em
y-'ath	忠告をする	?
k-nash	集める	knash
l Bash	着る	lbash
n-çal	救い出す	?
n-sâ	持ち去る	?
q-Bal	受け取る	qbal
r-Gash	騒然となる	rgash
s-Gâ	大きくなる	sgâ
sh- HaT	害なう	shahet
sh-lim	終わる	shlem
sh-Par	気に入る	shpar
K	2回	
g-DaD	切り倒す	?
d-mâ	似る	dmâ
zûa'	震える	zw'
Hánan	憐れみをかける	?
HáSan	所有する	?
HáçaP	厳格に処す	Hçap
y-Dâ	ほめる	ydâ
m-lâ	満たす	mlâ
n-thal	持ち上げる	?
SûP	完遂する	?

p-shar	解釈する	pshar
p-TaH	開く	ptaH
ç-lâ	折る	çlâ
r-'a'	粉碎する	?
r-PaS	躓かせる	?
sh-wâ	~のようである	shwâ
sh-Kan	住まう	?
L	1 回	
'ánaS	悲しませる；圧す	?
b-'esh	悪い	byesh
b-Dar	散らす	bdar
biT	夜を過ごす	?
b-lâ	疲弊させる；老いる	blâ
b-naS	怒る	?
b-raK	跪く	?
gûaH	鼓舞する	?
g-mar	終わらせる	gmar
d-BaH	犠牲にする	dbaH
D-Bêq	くつつく	dbaq
dûsh	踏みつける	dwsh
dîn	裁く	dwn
d-laq	燃やす	dlaq
z-Ban	買う	zban
zûD	凶々しい	zwd
zûn	食物を与える	zwn
z-man	同意する	zman
z-'iq	叫ぶ	z'aq
z-qaP	持ち上げる	zqap
Hûth	修理する	Hâth
HâraB	破壊する	Hrab
HâraK	焦がす，燃やす	Hrak
HâshaB	見なす，数える	Hshab
HâshaH	必要とする；適う	HshaH

Háshal	打ち砕く	Hshal
HáTam	封印をする	Htam
th-êB	良くある	the'b
th-lal	巣を作る；覆う	thal
y-thaB	好ましい	?
y-SaP	加える	ySap
y-çâ	終える	?
y çaB	確かめる	?
k-râ	心配する	krâ
k-raz	布告する	kraz
m-Gar	転覆させる	?
m-rith	引き抜く	mrath
n-Bâ	預言する	nbâ
n-GaD	流れる	ngad
n-DaD	逃亡する	cf. nâd 「忌む」
nûD	逃げる	nwd
n-thar	秘める；守る	nathar
n-SaH	抜く	?
n-SaK	提供する；注ぐ	naSak
n-çaH	傑出する、輝く	naSaH
n-qash	ノックする	nqash
n-Tar	揺らす；落とす	ntar
S-Bal	運ぶ	Sbal
S-Bar	求める；考える	Sbar
S-Gar	閉ざす、閉じ込める	Sgar
S-‘aD	支持する	?
S-Tar (I)	隠す	Star
S-Tar (II)	壊す	ク
‘aqar	引き抜く；通過する	‘aqar
‘ashaT	考える	?
p-laG	分かつ	plag
p-raS	分ける	?
p-raq	遺棄する；去る	praq

p-rash	分割する	parash
q-nâ	買う	qnâ
q-çaP	猛り狂う	qçâp
q-çaç	切り落とす	qeç
r-Gaz	憤る	rgaz
r-Haç	頼る	?
s-Kal	考察する	?
s-nâ	憎む	snâ
sh-Bash	困惑する	shabesh
sh-Dar	格闘する	shdal
sh-maD	破壊する	?
sh-mam	怖がらせる	shem
sh-mash	奉仕する	shamesh
sh-Path	審判する	?
t-Bar	壊す	tâbar
t-wah	驚く	twah
t-qal	重さがある	tqal
t-qan	再建する	tqen

上の頻度表からわかることは、アラム語動詞の主なもの（約80%；149/186）がシリア語のうちに同語根の動詞を持つということである。この高い割合は、両語を相互の関連のうちに教授する上で十分な理由となろう。

#### IV 活用の規則性によるアラム語動詞分類の試み

##### —シリア語との対照による—

次に動詞の分類について、アラム語、シリア語両語の文法書から分類の方法を模索してみる。3根字のうちに不規則性を秘めた音を含む動詞に関しては、活用の際に不規則性が露になるため、規則動詞とは区別して学ぶ必要がある。その不規則性の主たる要因となる「喉音」とは、<sup>h</sup>, h, H, <sup>h</sup> の4字を意味するが、これらと共通性をもつRがこれに加えられる。そこで本稿では、R字も含めて「喉音」扱いとする。

## 1) ローゼンタールによる分類 (アラム語)

まず「旧約聖書アラム語文法」の著者ローゼンタールによる動詞分類法を見てみよう。右欄には、シリア語の漸進文法書であるロビンソンの対応章番号を掲げておく。

〈cf.ロビンソンによる分類No〉

- |                      |           |
|----------------------|-----------|
| 1. 強動詞               |           |
| 2. 擦音・歯音により始まる語幹     |           |
| 3. 喉頭音ないしRを含む語幹      | 2)        |
| 4. Nに始まる語幹           | 1)        |
| 5. 'に始まる語幹           | 3)        |
| 6. 'を第二子音として含む語幹     | 5)        |
| 7. 'を最終子音として含む語幹     |           |
| 8. Yに始まる語幹           | 4)        |
| 9. WないしYを第二子音として含む語幹 | =くほみ動詞 6) |
| 10. W/Yないし'に終わる語幹    | 8)        |
| 11. 第二・第三子音が同一の語幹    | =ダブル動詞 7) |
| 12. 不規則動詞            |           |

両書の相違で注目されるのは2. および7. である。まず2の分類は、主としてイ(エ)トベエル、イ(エ)トパアル(後出)の変化形に関して、第1根字と「ト」の音が入れ代わる現象(metathesis)に関して特記したものであり、小区分として有益である。

また7. を別区分としながらも、ローゼンタールは「最終子音に'を含む動詞の大部分は、元来w/yで終わる動詞と混淆している。これら両者はもはや識別しがたく、一括してあつかう」(§126)としている。一方シリア語のロビンソンも「大多数の場合、'は単なる母音であり、付加子音の前に再出現するYに取って代わる」(p.111)とする。本稿ではこの区分を立てない。

## 2) ネルデケによる分類 (シリア語)

次に、シリア語の体系文法ネルデケにおける動詞分類を、先のローゼンタールによるものと比較してみよう。なお以下、たとえば「IN」とは「第一文字がN」の意である。

〈cf. ローゼンタールによる分類〉

1. 強動詞	1.
2. II 喉音／III 喉音（' を除く）動詞	3.
3. II' 動詞	6.
4. III' 動詞	7.
5. I N 動詞	4.
6. I' 動詞	5.
7. I W／Y 動詞	8.
8. III Y 動詞	10.
9. II W／Y 動詞	9.
10. ダブル動詞	11.
11. 二根以上弱音の動詞	
12. 不規則動詞	12.

両者は実質的にはほぼ一致している。ただ両書が I 喉音動詞を別項目で扱っていないのに対し、本稿ではそれらも若干数認められることから、これを別項として立てる。

### 3) ラムダンによる分類（ヘブル語）

最後に、ヘブル語漸進文法の決定版とも言われるラムダンの動詞分類を見てみることにしよう。ヘブル語はアラム／シリア語とは若干異なった性格を持つが、セム系言語として基本的に共通する面も多い。ラムダンは同書巻末に二つの基準に基づいた動詞分類表を掲げており、この分類は非常に意を尽くしたものとなっている。

1. 規則動詞
2. II／III 喉音動詞；II／III' 動詞
3. I 喉音動詞（I' を除く）
4. I' 動詞
5. I N 動詞
6. I Y 動詞
7. くほみ動詞
8. III h 動詞
9. ダブル動詞

8の「Ⅲ h 動詞」という分類に関連して、ヘブル語とアラム／シリア語の違いをここで確認しておこう。まずアラム語記述の場合、たとえばヘブル語の *bânâ*, *gâlâ* という、語末に h を母音字として伴った動詞に対応するのは、それぞれ *b-nâ*, *g-lâ* である。これら二語については（文字を表記すると）*b-nâ*/*b-nâh*, *g-lâ*/*glâh* の両形が記載され、いずれも語末に伴った別形を有しているため、「Ⅲ h」という分類のみを取り出すことには意味が伴わない。一方シリア語では、これら二語に関していずれもその語末字は'であるが、この字はシリア語では事実上の母音字である。

また3の「I 喉音 (I' を除く)」という分類には、「I h」「I H」「I '」の3つのケースが含まれていて、上にネルデケの項で見たように、本稿でもこの小分類を採用ことにしたい。

## V ②活用分類による旧約聖書アラム語動詞の表

では改めて、動詞活用の「規則性」「不規則性」という観点から、ミッチェルの類度順動詞表を分類しなおしてみよう。右欄に※で付記したのは、併存する性質である。なお実際には10. の「特に不規則な変化をする動詞」が先に意識されている。

### 1) 強動詞

#### a) 規則動詞

b-thêl	止まる	?
b-naS	怒る	?
D-Bêq	くつつく	dbaq
d-laq	燃やす	dlaq
z-Ban	買う	zban
z-man	同意する	zman
z-qaP	持ち上げる	zqap
k-nash	集める	knash
k-PaT	縛られる	kpet
k-TaB	書く	ktab
l-Bash	着る	lbash
S-Bal	運ぶ	Sbal

S-GiD	崇敬する	sged
p-laG	分かつ	plag
q-Bal	受け取る	qbal
q-thal	殺す	qthel
q-çaP	猛り狂う	qçâp
s-Kal	考察する	?
t-qal	重さがある	tqal
t-qan	再建する	tqen
t-qiP	強くある, なる	tqap

## b) 語頭歯音動詞

sh-Baq	見捨てる; 立ち去る	shbaq
sh-Bash	困惑する	shabesh
sh-Kan	住まう	?
sh-lêth	治める	shleth
sh-lim	終わる	shlem
sh-maD	破壊する	?
sh-mash	奉仕する	shamesh
sh-Path	審判する	?
sh-Pêl	低める	shpâl

## 2) I N動詞

n-Bâ	預言する	nbâ'	※ III'
n-GaD	流れる	ngad	
n-DaB	喜んで~する	?	
n-zaq	損害を被る	?	
n-HaT	降りる	nHat	※ II H
n-thal	持ち上げる	?	
n-thar	秘める; 守る	nathar	※ III R
n-SaH	抜く	?	※ III H
n-SaK	提供する; 注ぐ	naSak	
n-Pal	落ちる	npal	
n-Paq	出てゆく	npaq	
n-çaH	傑出する, 輝く	naSaH	※ III H
n-çal	救い出す	?	

n-qash	ノックする	nqash	
n-sa	持ち去る	nshâ	※Ⅲ'
n-Tan	与える	ntal	
n-Tar	揺らす；落とす	ntar	※Ⅲ R
3) I' 動詞			
'áBaD	滅びる	'ebad	
'ázâ	灯す	?	※Ⅲ'
'ázaI	出て行く	'ezal	
'áKal	食べる	'ekal	
'áman	信ず	'eman	
'ámar	言う	'emar	※Ⅲ R
'ánaS	悲しませる；圧す	?	
'áTar	設置する	cf. 'atar 「場所」	※Ⅲ R
4) I Y 動詞			
y-Dâ	ほめる	ydâ	※Ⅲ'
y-Da'	知る	yda'	※Ⅲ'
y-haB	与える	yahab	※Ⅱ h
y-thaB	好ましい	?	
y-SaP	加える	ySap	
y-'ath	忠告をする	?	※Ⅱ'
y-çaB	確かめる	?	
y-qaD	燃やす	iqed	
y-TiB	座る	yteb	
5) I 喉音動詞			
a) I h 動詞			
háDar	誉め称える	?	※Ⅲ R
b) I H 動詞			
HáBal	ねじる	Hbal	
HáBâl	傷つける	habel	
Háwâ	知らせる	hwâ	
Házâ	見る	Hzá	
HálaP	通りすぎる	Hlap	
HáSan	所有する	?	

HáraB	破壊する	Hrab	※ II R
HáraK	焦がす, 燃やす	Hrak	※ II R
HáçaP	厳格に処す	Hçap	
HáshaB	見なす, 数える	Hshab	
HáshaH	必要とする; 適う	HshaH	※ III H
Háshal	打ち砕く	Hshal	
HáTam	封印をする	Htam	
c) I 動詞			
'áBaD	なす	'âbed	
'áDâ	通りすぎる	'adâ	※ III'
'ánâ	答える	'anâ	※ III'
'áqar	引き抜く; 通り過ぐ	'aqar	※ III R
'áraB	交換する	'arab	
'ashaT	考える	?	
d) I R 動詞			
r-Gaz	憤る	rgaz	
r-Gash	騒然となる	rgash	
r-Haç	頼る	?	※ II H
r-PaS	躓かせる	?	
r-sham	刻みつける	rsham	
6) くほみ動詞			
bîT	夜を過ごす	?	
gûaH	鼓舞する	?	※ III H
dûr	めぐる	dwr	※ III R
dûsh	踏みつける	dwsh	
dîn	裁く	dwn	
zûD	凶々しい	zwd	
zûn	食物を与える	zwn	
zûa'	震える	zw'	※ III'
Hûth	修理する	Hâth	※ I H
nûD	逃げる	nwd	※ I N
SûP	完遂する	?	
qûm	立ち上がる	qwm	

rûm	体を起こす	rwm	※ I R
sîm	置く	sym	
tûB	戻る；悔いる	twb	
7) ダブル動詞			
g-DaD	切り倒す	?	
d-qaq	ぶち壊す	daq	
Hánan	憐れみをかける	Han	※ I H
th-lal	巣を作る；覆う	thal	
k-lal	終える	kal	
m-lal	語る	mal	
n-DaD	逃れる；忌む	nad	※ I N
'álal	入る	'al	※ I '
q-çaç	切り落とす	qeç	
r-'a'	粉碎する	?	※ I R
sh-mam	怖がらせる	shem	
8) II 喉音動詞			
a) II' 動詞			
b-'êsh	悪い	byesh	
th-'êB	良くある	the'b	
sh-'êl	質す	sh'al	
b) II h 動詞			
b-hal	鎮める	bhel	
c) II H 動詞			
d-Hal	恐れる	dHal	
sh-HaT	害なう	shahet	
d) II ' 動詞			
b-'â	探す	b'â	※ III'
z-'âq	叫ぶ	z'âq	
th-'am	養う	th'em	
S-'aD	支持する	?	
e) II R 動詞			
b-raK (I)	跪く	?	
b-raK (II)	祝福する	braK	

th-raD	追い散らす	thrad
k raz	布告する	karez
m-rith	引き抜く	mrath
p-raS	分ける	?
p-raq	遺棄する；去る	praq
p-rash	分割する	parash
q-rêB	近づく	qreb

## 9) III 喉音動詞

## a) III' 動詞

b-lâ	疲弊させる；老いる	blâ	
b nâ	建てる	bnâ	
g-lâ	明かす	glâ	
d-mâ	似る	dmâ	
k-râ	心配する	krâ	※ II R
m-Hâ	打つ	mhâ	※ II H
m-thâ	到着する	mthâ	
m-lâ	満たす	mlâ	
m-nâ	数える	mnâ	
ç-Bâ	欲する	çbâ	
ç-lâ	析る	çlâ	
q-nâ	買う	qnâ	
q-râ	呼ぶ	qrâ	※ II R
r-Bâ	大きくなる	rbâ	※ I R
r-mâ	落とす	rmâ	※ I R
s-Gâ	大きくなる	sgâ	
s-nâ	憎む	snâ	
sh-wâ	～のようである	shwâ	
sh-nâ	変わる	shnâ	
sh-râ	止める；緩める	shrâ	

## b) III h 動詞

t-wah	驚く	twah
-------	----	------

## c) III H 動詞

d-BaH	犠牲にする	dbaH
-------	-------	------

p-TaH	開く	ptaH
p-laH	仕える	?
ç-laH	繁栄させる	çlaH
sh-BaH	褒める	shba'
sh-KaH	見出す	shkaH
sh-laH	遣わす	shla'

## d) III '動詞

ç-Ba'	濡らす	çba'
sh-ma'	聴く	shma'

## e) III R 動詞

b-Dar	散らす	bdar
b-qar	探し求める	bqar
g-zar	奪い取る	gzâl
g-mar	終わらせる	gmar
m-Gar	転覆させる	?
p-shar	解釈する	pshar
S-Bar	求める; 考える	Sbar
S-Gar	閉ざす, 閉じ込める	Sgar
S-Tar (I)	隠す	
S-Tar (II)	壊す	Star
sh-Dar	格闘する	shdal
sh-Par	気に入る	shpar
t-Bar	壊す	tâbar

## 10) 特に不規則な動詞

〈ローゼンタール〉

y-çâ	終える	?	§ 166
'âTâ	来る	'etâ	§ 167
hâwâ	ある	hwâ	§ 168
hâlaK	行く	Salak	§ 169
Hâyâ	生きる	Hyâ	§ 170
k-hêl	能力がある	?	§ 171
y-Kil	能力がある	?	〃
S-liq	登る	Sleq	§ 172
sh-Tâ	飲む	shtay	§ 173

## VI アラム語動詞の語幹（談話態）活用

### —強動詞・諸不規則動詞—

次に上記の分類に基づき、強動詞からはじめて代表的な動詞に関してアラム語、シリア語の動詞活用体系を比較し、実用文法の体系化に努めることにしよう。その際、両語の動詞語幹（談話態）についての対照がまず必要となる。それぞれの名称を、ヘブル語での慣例に倣い、動詞 p'al の変化形で代表させて表記すると、下表のようになる。

	〈シリア語〉		〈アラム語〉		
語幹	能動	中受動	能動	中受動	受動
単純	p'al	'eTp'el	p'al	hiTp'él	p'íl
強意	pa"el	'eTpa"al	pa"él	hiTpa"al	pu"al
使役	aP'el	'ettaP'al	haP'él	hiThaP'al	hu/oP'al

サクストン (p.94 ff.) によれば「シリア語の pa"el はヘブル語の pi"el およびアラブ語の第二形に、シリア語の aP'el はヘブル語の hiP'íl およびアラブ語の第四形に、シリア語の 'eTp'el は、意味的にヘブル語の niP'al およびアラブ語の第七形（ないし第八形）に、シリア語の 'eTpa"al はヘブル語の pu"al およびアラブ語の第五形に、そしてシリア語の 'ettaP'al はヘブル語の hoP'al およびアラブ語の第十形に対応する」とされる。この記述から理解されるように、ヘブル語の niP'al 態は、セム語の動詞活用体系からやや外れた位置にある。ヘブル語に比べると、シリア語の動詞体系はきわめてシンメトリックで、能動形：再帰受動形が対応して計 6 形から活用体系が成り立っている。アラム語もシリア語と同じ構造をしている。

また旧約アラム語ではイタリックの 2 形、すなわち hiThaP'al 態と pu"al 態の証例がないほか、単純語幹 p'al の受動として p'él が、また使役語幹 haP'íl の受動に hu/oP'al が用いられている。p'íl (なおスティーブソン (p.45) によれば 'とくに三人称において用いられる (Dn 5.28 ; Ez 5.14)') の存在は、旧約アラム語がシリア語確立までの過渡期的現象であることを示している。また、そもそもヘブル語にあっても、慣例的に p'al の「受動」とされてきた niP'al 態は、受動というよりもむしろ再帰の意が強いことが明らかとなっている。なおアラム語では、この p'íl は p'al の受動分詞の形と同様である。

## VII アラム語基本動詞の語幹活用表

では、強動詞からはじめて、各語幹にわたってシリア語とアラム語の動詞を  
活用させつつ比較しよう。これにより、アラム語教授の際にシリア語を基軸と  
なしうるかどうかを検証されるであろう。

## 1). 強動詞

強動詞のうち、k-TaB「書く」(=Syr.ktab)をその代表とし、これを基に  
動詞全変化の体系表を構成するのがアラム語、シリア語文法の慣例である。

## I. 単純語幹

## ★シリア語 p'al

	〈完了〉	〈未完了〉	〈命令法〉	〈不定法〉
sg.3. masc.	kTaB	neKtoB		meKtaB
	fem. keTbaT	teKtoB		
2. masc.	kTaBt	teKtoB	kToB	
	fem. kTaBt	teKtBin	kToB	
1.	keTbeT	'eKtoB		〈分詞〉
				能動 受動
pl.3. masc.	kTaB/kTaBun	neKtBun		sg.m. kâTeB kTiB
	fem. kTaB/kTaBên	neKtBân		f. KâTBâ kTiBâ
2. masc.	kTaBton	teKtBun	kToB(un)	
	fem. kTaBtên	teKtBân	kToB(ên)	pl.m. kâTBin kTiBin
1.	kTaBn/-nan	neKtoB		f. KâTBân kTiBân

上表のうち、完了では、単数2人称女性形における無音の y, 複数3人称男  
性形における無音の w, 同女性形における無音の y, 命令法二人称女性形にお  
ける無音の y は表記していない(以下に記す各語幹に関しても同じ)。

次にアラム語を記す。

## ★アラム語 p'al

	〈完了〉	〈未完了〉	〈命令法〉	〈不定法〉	
sg.3. masc.	k-TaB	yiKtuB		miKtaB	
	fem. kiTBaT	tiKtuB			
2. masc.	k-TaBt/-tá	tiKtuB	k-TuB		
	fem. k-TaBti	tiKt-Bín	k-TuBí		
1.	kiTBéT	'eKtuB		〈分詞〉	
			能動	受動	
pl.3. masc.	k-TaBú	yiKt-Bûn	sg.m. kâTêB/-iB	k-TiB	
	fem. k-TaBâ	yiKt-Bân	f. KâTBâ	k-TiBâ	
2. masc.	k-TaBtûn	tiKt-Bûn	k-TuBú		
	fem. k-TaBtên	tiKt-Bân	k-TuBâ	pl.m. kâTBín	k-TiBín
1.	k-TaBnâ	niKtuB		f. KâTBân	k-TiBân

両者の近似性は明らかであり、本稿第Ⅱ章に記した動詞活用の基本パターンが守られて活用が行われていることがわかる。したがってその基本パターンを周知徹底させつつシリア語を軸にアラム語を教授することは十分に可能であろう。

以下、強意・使役各語幹に関しても両者を比較するが、図示のみに留める。

## Ⅱ. 強意語幹

## ★シリア語 pa'el

	〈完了〉	〈未完了〉	〈命令法〉	〈不定法〉	
sg.3. masc.	katteB	nKatteB		mKattâBu	
	fem. kattBaT	tKatteB			
2. masc.	katteBt	tKatteB	katteB		
	fem.	tKattBin	〃		
1.	kattBeT	'eKatteB		〈分詞〉	
			能動	受動	
pl.3. masc.	katteB(un)	nKattBun	sg.m. mKatteB	mKattaB	
	fem. katteB(ên)	nKattBân	f. mKattBâ	(以下能動	
2. masc.	katteBton	tKattBun	katteB(un)	形に同じ)	
	fem. katteBtên	tKattBân	katteB(ên)	pl.m. mKattBin	〃
1.	katteBn(an)	nKatteB		f. mKattBân	〃

## ★アラム語 pa“êl

	〈完了〉	〈未完了〉	〈命令法〉	〈不定法〉
sg.3. masc.	kattêB(katîB)	y-KattêB(-îB)		kattâBâ
	fem. kattBaT	t-KattêB		
2. masc.	kattêBt	t-KattêB	kattêB(-îB)	
	fem. kattêBti	t-KattBin	kattîBî	
1.	kattêBT	'âKattêB		〈分詞〉
			能動	受動
pl.3. masc.	kattîBû	y-KattBûn	sg.m. m-KattêB	m-KattaB
	fem. kattîBâ	y-KattBân	f. m KattBâ	m-KattBâ
2. masc.	kattêBtûn	t-KattBûn	kattîBû	
	fem. kattêBtên	t-KattBân	kattîBâ	pl.m. m-KattBin m-KattBin
1.	kattêBnâ	n-KattêB		f. m-KattBân m-KattBân

## III. 使役語幹

## ★シリア語 'aP'el

	〈完了〉	〈未完了〉	〈命令法〉	〈不定法〉
sg.3. masc.	'aKteB	naKteB		maKtâBu
	fem. 'aKtBaT	taKteB	〈命令法〉	
2. masc.	'aKteBt	taKteB	'aKteB	
	fem.	taKtBin	ゞ	
1.	'aKtBeT	'aKteB		〈分詞〉
			能動	受動
pl.3. masc.	'aKteB(un)	naKtBun	sg.m. maKteB	maKtaB
	fem. 'aKteB(ên)	naKtBân	f. maKtBâ	maKtaBâ
2. masc.	'aKteBton	taKtBun	'aKteB(un)	
	fem. 'aKteBtên	taKtBân	'aKteB(ên)	pl.m. maKtBin maKtaBin
1.	'aKteBn(an)	naKteB		f. maKtBân maKtaBân

★アラム語 haP<sup>e</sup>l

	〈完了〉	〈未完了〉	〈不定法〉
sg.3. masc.	haKtêB('aK-/iB)	y-haKtêB(yaK-/iB)	haKtâBâ
fem.	haKt-BaT	t-haKtêB	〈命令法〉
2. masc.	haKtêBt	t-haKtêB	haKtêB('aK-/iB)
fem.	haKtêBtî	t-haKtêBîn	haKtîBî
1.	haKt-BêT	'âhaKtêB	〈分詞〉
			能動 受動
pl.3. masc.	haKtîBû	y-haKt-Bûn	sg.m. m-haKtêB m-haKtaB
fem.	haKtîBâ	y-haKt-Bân	f. m-haKtêBâ m-haKt-Bâ
2. masc.	haKtêBtûn	t-haKt-Bûn	haKtîBû
fem.	haKtêBtên	t-haKt-Bân	haKtîBâ
1.	haKtêBnâ	n-haKtêB	pl.m. m-haKt-Bîn m-haKt Bîn f. m-haKt-Bân m-haKt-Bân

上記各語幹の比較から、一般にシリア語では、アラム語の長母音が短音化する傾向にあることがわかる。その際に、アラム語の i (î) 音がシリア語では e 音化し、またアラム語で á 音のとき、シリア語では e 音になる傾向を持つ。なお不定詞に関して、両者の相違は大きいので留意が必要であろう。

引き続き、単純・強意・使役各語幹の再帰受動形についても図示をおこなう。

## IV. 単純／再帰受動語幹

★シリア語 'eTp<sup>e</sup>l

	〈完了〉	〈未完了〉	〈不定法〉
sg.3. masc.	'eTkTeB	neTkTeB	meTkTâBu
fem.	'eTkaTBaT	teTkTeB	〈命令法〉
2. masc.	'eTkTêBt	teTkTeB	'eTkTeB('eTkaTb)
		teTkaTBin	〃
1.	'eTkaTBeT	'eTkTeB	〈分詞〉
pl.3. masc.	'eTkTeB(un)	neTkaTBun	sg.m. meTkTeB
fem.	'eTkTeB(ên)	neTkaTBân	'eTkTeB(un)
2. masc.	'eTkTêBton	teTkaTBun	'eTkTeB(ên)
fem.	'eTkTêBtên	teTkaTBân	pl.m. meTkaTBin
1.	'eTkTêBn(an)	neTkTeB	f. meTkaTBân

## ★アラム語 hiTp- 'èl

	〈完了〉	〈未完了〉	〈不定法〉
sg.3. masc.	hiTk-TèB(eT-/iB)	yiTk-TèB(-iB)	hiTk-TâBâ('eT)
	fem. hiTkaTBaT	tiTk-TèB	〈命令法〉
2. masc.	hiTk-TèBt(â)	tiTk-TèB	(現れず)
	fem. hiTk-TèBti	tiTkaTBîn	
1.	hiTkaTBèT	'eTk-TèB	〈分詞〉
			sg.m. miTk-tèB(-iB)
			f. miTkattBâ
pl.3. masc.	hiTk-TiBû	yiTkaTBûn	
	fem. hiTk-TiBâ	yiTkaTBân	
2. masc.	hiTk-TèBtûn	tiTkaTBûn	pl.m. miTkattBîn
	fem. hiTk-TèBtên	tiTkaTBân	f. miTkattBân
1.	hiTk-TèBnâ	niTk-TèB	

旧約アラム語では、命令法の証例が欠けているが、他の語幹形におけるシリア語・アラム語の関係と、シリア語における命令法の形から推測し、その基本形 (sg.2.m.) は hiTKtèB であることが知られる。これはステイーブンソンからも推測確認しうる。

## V. 強意／再帰受動語幹

## ★シリア語 'eTpa'al

	〈完了〉	〈未完了〉	〈不定法〉
sg.3. masc.	'eTkattaB	neTkattaB	meTkattâBu
	fem. 'eTkattBaT	teTkattaB	〈命令法〉
2. masc.	'eTkattaBt	teTkattaB	'eTkattaB
		teTkattBin	〃
1.	'eTkattBeT	'eTkattaB	〈分詞〉
			sg.m. meTkattaB
			f. meTkattBâ
pl.3. masc.	'eTkattaB(un)	neTkattBun	
	fem. 'eTkattaB(ên)	neTkattBân	
2. masc.	'eTkattaBton	teTkattBun	'eTkattaB(un)
	fem. 'eTkattaBtên	teTkattBân	'eTkattaB(ên)
			pl.m. meTkattBîn
			f. meTkattBân
1.	'eTkattaBn(an)	neTkattaB	

## ★アラム語 hiTpa'al

	〈完了〉	〈未完了〉	〈不定法〉
sg.3. masc.	hiTkattaB('eT)	yiTkattaB	hiTkattâBâ('eT-)
	fem. hiTkattBaT	tiTkattaB	〈命令法〉
2. masc.	hiTkattaBt	tiTkattaB	〈現れず〉
	fem. hiTkattaBti	tiTkattBin	
1.	hiTkattBêT	'eTkattaB	〈分詞〉
			sg.m. miTkattaB
pl.3. masc.	hiTk-TiBi	yiTkattBûn	f. miTkattaBâ
	fem. hiTk-TiBâ	yiTkattBân	
2. masc.	hiTk-TêBtûn	tiTkattBûn	pl.m. miTkattaBin
	fem. hiTk-TêBtên	tiTkattBân	f. miTkattaBân
1.	hiTk-TêBnâ	niTkattaB	

この語幹でもやはり、旧約アラム語では命令法の証例が欠けているが、シリア語における命令法の形から推測し、その基本形 (sg.2.m.) は hiTkattaB であることがわかる。これをステーブソンから推測確認することもできる。

## VI. 使役/再帰受動語幹

## ★シリア語 'ettaP'al

	〈完了〉	〈未完了〉	〈不定法〉
sg.3. masc.	'ettaKtaB	nettaKtaB	mettaKtâBu
	fem. 'ettaKtBaT	tettaKtaB	〈命令法〉
2. masc.	'ettaKtaBt	tettaKtaB	'ettaKtaB
		tettaKtBin	〃
1.	'ettaKtBeT	'ettaKtaB	〈分詞〉
			sg.m. mettaKtaB
pl.3. masc.	'ettaKtaB(un)	nettaKtBun	f. mettaKtBâ
	fem. 'ettaKtaB(ên)	nettaKtBân	
2. masc.	'ettaKtaBton	tettaKtBun	'ettaKtaB(un)
	fem. 'ettaKtaBtên	tettaKtBân	'ettaKtaB(ên)
1.	'ettaKtaBn(an)	nettaKtaB	pl.m. mettaKtBin
			f. mettaKtBân

この語幹に関しては、旧約アラム語に証例がない。しかし他の語幹に見られたシリア語：アラム語の対応関係から、次のように推測することができる。これはステイブソンから推測確認しうる結果でもある。

★アラム語 hittaP'al (推測)

	〈完了〉	〈未完了〉	〈不定法〉
sg.3. masc.	hittoKtaB	yittoKtaB	hittoKtâBâ
fem.	hittoKtaBaT	tittoKtaB	〈命令法〉
2. masc.	hittoKtaBt	tittoKtaB	hittoKtaB
	hittoKtaBti	tittoKtBin	hittoKtaBi
1.	hittoKtBêT	'ettoKtaB	
			〈分詞〉
pl.3. masc.	hittoKtaBû	yittoKtBûn	sg.m. mittoKtaB
fem.	hittoKtaBâ	yittoKtBân	f. mittoKtBâ
2. masc.	hittoKtaBtûn	tittoKtBûn	hittoKtaBû
fem.	hittoKtaBtên	tittoKtBân	hittoKtaBâ
1	hittoKtaBnâ	nittoKtaB	pl.m. mittoKtBin f. mittoKtBân

以上6個の語幹対照により、本稿冒頭で示したローゼンタールの一般化した活用表からは省かれていた部分、つまり旧約アラム語の不定詞、分詞を一般化して推測することができる。すなわちシリア語の不定詞は定形に対して語頭を me- にし、語尾を -âBu にして形成するのに対して、アラム語の不定詞は当該語幹定形の語尾を -âBâ に置き換えればよい。またシリア語の分詞は定型の語頭を me- に変えるのに対して、アラム語の分詞は定形の語頭を mi- に置き換えればよいことがわかる。

最後に、旧約アラム語に特有な三種の語幹（単純受動語幹、強意受動語幹、使役受動語幹）に関しても、ローゼンタールの表に基づきまとめておこう。

## VII 単純受動語幹

旧約アラム語 p-ʿil

〈完了〉

sg.3. masc.	k-ṭiB
fem.	k-ṭiBaT
2. masc.	k-ṭiBTâ
fem.	k-ṭiBTî
1.	k-ṭiBêT

pl.3. masc.	k-ṭiBû
fem.	k-ṭiBâ
2. masc.	k-ṭiBtûn
fem.	k-ṭiBtên
1.	k-ṭiBnâ

## VIII 強意受動語幹※非認証 IX 使役受動語幹

旧約アラム語 puʿal

〈完了〉

sg.3. masc.	kutaB
fem.	kutBaT
2. masc.	kutaBTâ
fem.	kutaBTî
1.	kutBêT

pl.3. masc.	kutaBû
fem.	kutaBâ
2. masc.	kutaBtûn
fem.	kutaBtên
1	kutaBnâ

旧約アラム語 huPʿal

〈完了〉

sg.3. masc.	huktaB
fem.	hukt-BaT
2. masc.	huktaBTâ
fem.	huktaBTî
1.	hukt-BêT

pl.3. masc.	huktaBû
fem.	huktaBâ
2. masc.	huktaBtûn
fem.	huktaBtên
1	huktaBnâ

## 2). くほみ動詞, III弱動詞, ダブル動詞

ローゼンタールには、強動詞としての k-TaB のほか、代表的活用としては、くほみ動詞として qûm (立ち上がる), III弱動詞として b-nâ (建てる), ダブル動詞として 'alal が挙げられているのみである。もちろんこれ以外にもアラム語の動詞は上記のように分類され、それぞれに表を立てねばならないはずであるが、強動詞において両語の共通点と根相違点を確認したのに続き、表を確認しうる上記三例を取り上げることで、アラム語動詞変化の概要は伝えうるであろう。

以下、くほみ動詞, III弱動詞, ダブル動詞の三種に関してまずシリア→アラムの共通規則を見出す。それにもとづき、他の不規則動詞についても推測をおこない、ロビンソンと比較する。ただローゼンタールに表が掲げられているので、シリア語との類証は単純語幹のみに限り、また活用形に関しても、完了・未完了・命令法・不定法・能動分詞形のみに限ることとする。

a) くほみ動詞 qûm  
 〈単純能動語幹〉

★シリア語 qwm

〈完了〉 〈未完了〉

sg.3. masc. qâm	nqum		〈不定法〉
fem. qâmaT	tqum	〈命令法〉	mqâm
2. masc. qâmt	tqum	qum	
fem. qâmt	tqumin	qum	
1. qâmeT	equm		〈分詞〉
pl.3. masc. qâm (un)	nqumun		能動
fem. qâm (ên)	nqumân		sg.m. qâ'em
2. masc. qâmton	tqumun	qum(un)	f. qâyâmâ
fem. qâmten	tqumân	qum(ên)	pl.m. qâymin
1. qâmn (an)	nqum		f. qây mân

★アラム語 qûm

〈完了〉 〈未完了〉

sg.3. masc. qâm	y-qûm		〈不定法〉
fem. qâmaT	t-qûm	〈命令法〉	m-qâm
2. masc. qâm-tâ	t-qûm	qûm	
fem. qâm-tî	t-qûmîn	qûmî	
1. qâmeT	â-qûm		〈分詞〉
pl.3. masc. qâmû	y-qûmûn		能動
fem. qâmâ	y-qûmân		sg.m. qâ'em
2. masc. qâm-tûn	t-qûmûn	qûmû	f. qâyâmâ
fem. qâm tèn	t-qûmân	qûmâ	pl.m. qâymin
1. qâmnâ	n-qûm		f. qây mân

表から明らかなおり、能動分詞形で語中に'字が現れるという点も、アラム語とシリア語の共通性を表している。

## b) III' 動詞 b-nâ

〈単純語幹〉

## ★シリア語 b-nâ

	〈完了〉	〈未完了〉	〈不定法〉	
sg.3. masc. bnâ		neBnê		meBnâ
fem. bnâT		teBnê	〈命令法〉	
2. masc. bnayt		teBnê	bni	
fem. bnayt		teBneyn	bnây	
1. bnêT		'eBnê		〈分詞〉
			能動	受動
pl.3. masc. bnaw		neBnôn	sg.m. bânê	bnê
fem. bnay		neBnyân	f. bânâyâ	banyâ
2. masc. bnayton		teBnôn	bnaw	
fem. bnaytên		teBnyân	bnâyên	pl.m. bâneyn
1. bnayn		nebnê		f. bânâyân
				banyân

## ★アラム語 b nâ

	〈完了〉	〈未完了〉	〈不定法〉	
sg.3. masc. b-nâ		yiBnê		miBnê
fem. b-nâT		tiBnê	〈命令法〉	
2. masc. b-nay-Tâ		tiBnê	b-nî	
fem. b-nay-Tî		tiBnên		
1. b-nêT		'eBnê		〈分詞〉
			能動	受動
pl.3. masc. b-nô		yiBnôn	sg.m. bânê	b-nê
fem. b-nâ		yiBn-yân	f. bânâyâ	banyâ
2. masc. b-nêTûn		tiBnôn	b-nô	
fem. b-nêTên		tiBn-yân		pl.m. bânayn
1. b-nênâ		niBnê		f. bânâyân
				banyân

## c) ダブル動詞 'alal

〈単純語幹〉

## ★シリア語 'al

	〈完了〉	〈未完了〉		〈不定法〉
sg.3. masc.	'al	ne'ol		me'al
	fem. 'ellat	te'ol	〈命令法〉	
2. masc.	'alt	te'ol	'ol	
	fem. 'alt	te'lîn	'ol	
1.	'ellet	'ê'ol		〈分詞〉 能動
pl.3. masc.	'al(un)	ne'lun		sg.m. 'â'el
	fem. 'al(ên)	ne'lân		f. 'állâ
2. masc.	'alton	te'lun	ol(un)	
	fem. 'altên	te'lân	ol(ên)	pl.m. 'állin
1.	'aln(an)	ne'ol		f. 'állân

## ★アラム語 'alal

	〈完了〉	〈未完了〉		〈不定法〉
sg.3. masc.	'al	yê'ol		mê'al
	fem. 'allaT	tê'ol	〈命令法〉	
2. masc.	'álaltâ	tê'ol	'ol	
	fem. 'álaltî	tê'ólîn	'ólli	
1.	'allêT	'ê'ol		〈分詞〉 能動 受動
pl.3. masc.	'allû	'ê'ólûn		sg.m. 'álêl 'álil
	fem. 'allâ	'ê'ólân		f. 'állâlâ
2. masc.	'álaltûn	tê'ólûn	'óllû	
	fem. 'álaltân	tê'ólân	'óllâ	pl.m. 'állilîn
1.	'álalnâ	ne'ol		f. 'állâlân

## VII 結.

動詞活用の比較検討を中心とした本稿での考察により、アラム語の教授に際してはシリア語文法を参照することが極めて有効であることが明らかになった。最後に、ロビンソンによるシリア語漸進文法よりもさらに新しく、発音表記なども徹底したサクストンによる動詞学習プランを参照し、アラム語を漸進的に扱う際に、いかなる進め方が合理的かを考えておきたい。

サクストンでは、まず § 2-1で強動詞の完了変化の全貌を学習したのち、§ 7 1でⅢ弱動詞の変化(完了)を学び、§ 8 1で能動分詞、つづいて § 10-1でI Y動詞の変化を学ぶ。それに続き § 11-1でくほみ動詞、-2でダブル動詞、-3でⅡ'動詞の変化をまとめて学習するという方法を採用している。さらに § 12 1で受動分詞を学び、§ 13-4で不定法を学習する。次に § 14で未完了全般(および命令法)が扱われ、まず-1で強動詞、2でI N動詞、-3でI'動詞、-4でI Y動詞、-5でⅢ弱動詞、-6でくほみ動詞、-7でダブル動詞、8でⅡ'動詞のそれぞれ未完了形について集中的に提示される。以上はもちろん p'al 態に関してであり、第16章から第20章にかけて、p'al 以外の語幹形について各章でI語幹ずつ、順に学ぶことになる。

このプランをアラム語学習に当てはめることはできるだろうか。上に記したなかで、下線を付したのが、本稿で考察しえたかぎりでのシリア語と旧約アラム語との対照提示可能な項目であり、これは全体として、十分な割合に達していると言えるだろう。もちろん、下線を付していないI Y動詞やI N動詞、あるいはⅡ'動詞等に関しても、どの動詞がいかなる活用パターンに属するかを提示することができた。またローゼンタールは、項目を細かく区分した上で各変化パターンに関して注意事項を記している。したがってシリア語文法の漸進的解説を軸に、その動詞解説にさしかかった際に、ローゼンタールのような旧約アラム語の補説的解説書で説明を補いつつ本稿での考察結果を参照してアラム語動詞の解説を実施する、という方法が最も現実的だと考えられるであろう。

シリア語を学ぶことは、シリア教父たちの著作に親しむことを意味するばかりでなく、ベシッタ訳の知識を得ることにつながって聖書文献学の知見をも増し高める。さらにアラム語文法教育の骨格ともなりうるものが本稿により示され、このような方法を辿ることで、旧約聖書本文の内在的な理解にも寄与することが実証されたと考えたい。

## 区 付. 動詞インデックス

付録として、旧約聖書アラム語部分に現れる全動詞(186ケ)をアルファベット順に掲げ、本稿でどの活用パターンに分類したか、番号で順に表示しておく。二つの性格を併せ持つ場合も、本稿での主たる分類を指示した。また頻度表示はミッチェルによるものを踏襲した。

	〈意味〉	〈シリア語対応語彙〉	〈分類〉	〈頻度〉
'áBaD	滅びる	'abad	3	F
'ázâ	灯す	?	3	J
'ázal	出て行く	'azal	3	F
'áKal	食べる	'akal	3	F
'áman	信ず	'aman	3	J
'ámar	言う	'âmar	3	A
'ánaS	悲しませる；圧す	?	3	L
'áTâ	来る	etâ	10	C
'áTar	設置する	ytar	3	E
b-'ésh	悪い	byesh	8 a)	L
b-Dar	散らす	bdar	9 e)	L
b-hal	鎮める	bhel	8 b)	D
b-thêl	止まる	?	1 a)	G
bíT	夜を過ごす	?	6	L
b-lî	疲弊させる；老いる	blâ	9 a)	L
b-nâ	建てる	bnâ	9 a)	B
b-naS	怒る	?	1 a)	L
b-'â	探す	b'â	8 d)	D
b-qar	探し求める	bqar	9 e)	H
b-raK (I)	跪く	?	8 e)	L
b-raK (II)	祝福する	braK	8 e)	I
g-DaD	切り倒す	?	7	K
gûaH	鼓舞する	?	6	L
g-zar	奪い取る	gzâl	9 e)	G
g-lâ	明かす	glâ	9 a)	E

g-mar	終わらせる	gmar	9 e)	L
d-BaH	犠牲にする	dbaH	9 c)	L
D-Bêq	くつつく	dbaq	1 a)	L
dûr	めぐる	dwr	6	F
dûsh	踏みつける	dwsh	6	L
d-Hal	恐れる	dHal	8 c)	G
dîn	裁く	dwn	6	H
d-laq	燃やす	dlaq	1 a)	L
d-mâ	似る	dmâ	9 a)	K
d-qaq	ぶち壊す	daq	7	D
háDar	誉め称える	?	5 a)	J
háwâ	ある	hwâ	10	A
hálaK	行く	Salak	10	F
z-Ban	買う	zban	1 a)	L
zûD	凶々しい	zwd	6	L
zûn	食物を与える	zwn	6	K
zúa'	震える	zw'	6	K
z-man	同意する	zman	1 a)	D
z-'îq	叫ぶ	z'aq	8 d)	L
z-qaP	持ち上げる	zqap	1 a)	L
HáBal	ねじる	Hbal	5 b)	G
HáBâl	傷つける	habel	5 b)	J
Háwâ	知らせる	hwâ	5 b)	C
Hûth	修理する	Hâth	6	L
Házâ	見る	Hzá	5 b)	B
Háyâ	生きる	Hyâ	10	G
HálaP	通りすぎる	Hlap	5 b)	I
Hánan	憐れみをかける	?	7	K
HáSan	所有する	?	5 b)	K
HáraB	破壊する	Hrab	5 b)	L
HáraK	焦がす, 燃やす	Hrak	5 b)	L
HáçaP	厳格に処す	Hçap	5 b)	K
HáshaB	見なす, 数える	Hshab	5 b)	L

HáshaH	必要とする；適う	HshaH	5 b)	L
Háshal	打ち砕く	Hshal	5 b)	L
HáTam	封印をする	Htam	5 b)	L
th-êB	良くある	the'b	8 a)	L
th-lal	巢を作る；覆う	thal	7	L
th-'am	養う	th'em	8 d)	J
th-raD	追い散らす	thrad	8 e)	I
y-Dâ	ほめる	ydâ	4	K
y-Da'	知る	yda'	4	B
y-haB	与える	yahab	4	B
y-thaB	好ましい	?	4	L
y-Kil	能力がある	?	10	D
y-SaP	加える	ySap	4	L
y-'ath	忠告をする	?	4	J
y-çâ	終える	?	10	L
y-çaB	確かめる	?	4	L
y-qaD	燃やす	iqed	4	E
y-TiB	座る	yteb	4	H
k-hêl	能力がある	?	10	I
k-lal	終える	kal	7	F
k-nash	集める	knash	1 a)	J
k-PaT	縛られる	kpet	1 a)	I
k-râ	心配する	krâ	9 a)	L
k-raz	布告する	karez	8 e)	L
k-TaB	書く	ktab	1 a)	E
l-Bash	着る	lbash	1 a)	J
m-Gar	転覆させる	?	9 e)	L
m-Hâ	打つ	mhâ	9 a)	I
m-thâ	到着する	mthâ	9 a)	K
m-lâ	満たす	mlâ	9 a)	L
m-lal	語る	mal	7	H
m-nâ	数える	mnâ	9 a)	H
m-rith	引き抜く	mrath	8 e)	L

n-Bâ	預言する	nbâ	2	L
n GaD	流れる	ngad	2	L
n-DaB	喜んで～する	?	2	I
n-DaD	逃亡する	cf. nâd 「忌む」	7	L
nûD	逃げる	nwd	6	L
n-zaq	損害を被る	?	2	I
n-HaT	降りる	nHat	2	G
n-thal	持ち上げる	?	2	K
n-thar	秘める；守る	nathar	2	L
n-SaH	抜く	?	2	L
n-SaK	提供する；注ぐ	naSak	2	L
n-Pal	落ちる	npal	2	D
n-Paq	出てゆく	npaq	2	D
n-çaH	傑出する，輝く	naSaH	2	L
n-çal	救い出す	?	2	J
n-qash	ノックする	nqash	2	L
n-sâ	持ち去る	nshâ	2	J
n-Tan	与える	ntal	2	F
n-Tar	揺らす；落とす	ntar	2	L
S-Bal	運ぶ	Sbal	1 a)	L
S-Bar	求める；考える	Sbar	9 e)	L
S-GiD	崇敬する	sged	1 a)	D
S-Gar	閉ざす，閉じ込める	Sgar	9 e)	H
SûP	完遂する	?	6	K
S-liq	登る	Sleq	10	E
S-‘aD	支持する	?	8 d)	L
S-Tar (I)	隠す	Star	9 e)	L
S-Tar (II)	壊す	々	9 e)	L
‘aBaD	なす	‘âbed	5 c)	B
‘aDâ	通りすぎる	‘adâ	5 c)	E
‘âlal	入る	‘al	7	C
‘aná	答える	‘aná	5 c)	B
‘aqar	引き抜く；通り過ぐ	‘aqar	5 c)	L

'áraB	交換する	'arab	5 c)	I
'ashaT	考える	?	5 c)	L
p-laG	分かつ	plag	1 a)	L
p-laH	仕える	?	9 c)	D
p-raS	分ける	?	8 e)	L
p-raq	遺棄する；去る	praq	8 e)	L
p-rash	分割する	parash	8 e)	L
p-shar	解釈する	pshar	9 e)	K
p-TaH	開く	ptaH	9 c)	K
ç-Bâ	欲する	çbâ	9 a)	D
ç-Bâ'	濡らす	çba'	9 c)	H
ç-lâ	祈る	çlâ	9 a)	K
ç-laH	繁栄させる	çlaH	9 c)	I
q-Bal	受け取る	qbal	1 a)	J
qûm	立ち上がる	qwm	6	B
q-thal	殺す	qthel	1 a)	F
q-nâ	買う	qnâ	9 a)	L
q-çaP	猛り狂う	qçâp	1 a)	L
q-çaç	切り落とす	qeç	7	L
q-râ	呼ぶ	qrâ	9 a)	D
q-rêB	近づく	qreb	8 e)	E
r-Bâ	大きくなる	rbâ	9 a)	G
r-Gaz	憤る	rgaz	5 d)	L
r-Gash	騒然となる	rgash	5 d)	J
rûm	体を起こす	rwm	6	I
r-Haç	頼る	?	5 d)	L
r-mâ	落とす	rmâ	9 a)	D
r-'a'	粉碎する	?	7	K
r-PaS	躓かせる	?	5 d)	K
r-sham	刻みつける	rsham	5 d)	F
s-Gâ	大きくなる	sgâ	9 a)	J
sîm	置く	sym	6	B
s-Kal	考察する	?	1 a)	L

s-nâ	憎む	snâ	9 a)	L
sh-'êl	質す	sh'al	8 a)	G
sh-BaH	褒める	shba'	9 c)	H
sh-Baq	見捨てる；立ち去る	shbaq	1 b)	H
sh-Bash	困惑する	shabesh	1 b)	L
sh-Dar	格闘する	shdal	9 e)	L
sh-wâ	～のようである	shwâ	9 a)	K
sh-HaT	害なう	shahet	8 c)	J
sh-KaH	見出す	shkaH	9 c)	C
sh-Kan	住まう	?	1 b)	K
sh-laH	遣わす	shla'	9 c)	L
sh-lêth	治める	shleth	1 b)	F
sh-lîm	終わる	shlem	1 b)	J
sh-maD	破壊する	?	1 b)	L
sh-mam	怖がらせる	shem	7	L
sh-ma'	聴く	shma'	9 d)	E
sh-mash	奉仕する	shamesh	1 b)	L
sh-nâ	変わる，異なる	shnâ	9 a)	B
sh-Path	審判する	?	1 b)	L
sh-Pêl	低める	shpâl	1 b)	I
sh-Par	気に入る	shpar	9 e)	J
sh-râ	止める；緩める	shrâ	9 a)	G
sh-Tâ	飲む	shtay	10	H
t-Bar	壊す	tâbar	9 e)	L
tûB	戻る；悔いる	twb	6	E
t-wah	驚く	twah	9 b)	L
t-qal	重さがある	tqal	1 a)	L
t-qan	再建する	tqen	1 a)	L
t-qiP	強くある，なる	tqap	1 a)	H